

# 花しおり

Hana-shiori

平成11年県PTA親子読書20分推進校の委嘱を受け、翌12年に豊川小PTAで発足したお話サークル。総勢17人のメンバーの中から毎週、豊川小のクラスで1人ずつ読み聞かせを行う。平成30年から、月1回は松橋支援学校、夏休み期間は放課後デイサービスでも実施し、利用者の心をつかんでいる。結成当初から活動の魅力を伝える「花しおりだより」は発行56回を数える。平成30年度県優良読書グループ表彰受賞。 題字 中川 寿子



①ブラックパネルシアター「おおかみと7匹の子ヤギ」  
②豊川小まつり演目披露前に円陣  
③朝学習で子どもたちみんなと手遊び  
④絵本『ラチとらいおん』。手縫いのライオンは自信を付けるためのお守り



## 個性豊かなお話サークル

「子どもたちは朝ばたばたしていても、そのときだけは物語の世界に入る。そんなほっこりした空間を一緒に楽しみたい。」

豊川小で毎週金曜日、朝活動の10分間で児童に読み聞かせを行うお話サークル「花しおり」。今年で結成21年目。PTAの活動から始まり、今では地域全体に広がる。メンバーは手遊びや歌など、それぞれの得意技を駆使し、温かな空間を生む。

「誦語じいちゃん」こと前崎正隆さんもその1人。みんなで論語を声に出して読むことで身近に感じる。市全体で授業に取り入れられる前から、子どもたちが論語に親しむ機会をつくってきた。

メンバーのさまざまな個性が結集し輝きを放つのが、年に一度の豊川小学習発表会。物語に合わせて絵人形を動かすブラックパネルシアターやペープサート、大型紙

芝居など毎年さまざまな演目で、音響や歌、小道具、題字台本作成、演技、とそれぞれの特技が生かされる。児童にも評判の大作だ。

## 「楽しむ」こと

「できるときに、無理せず、楽しく」——

これが花しおりのモットー。誰かが急に参加できなくなっても、率先してメンバーや図書委員の児童が代わりを務める。20年間で培ってきたサークルの居心地の良い空気が、「行かなん」ブレッツシャーとは無縁の環境をつくる。

この意識は読み聞かせにも通じる。結成からのメンバーで、豊川小図書職員だった山下康代さんは、「きれいに読まんでいい。ひっかかったり、熊本弁丸出しにしたっちゃよかったですよ。」と話す。

やらべきことに縛られ、失敗したらと不安になるとうまくいかない。だからこそみんな楽しく読む。6年生の大高結妃さんは「気持ち

ちを込めて、私たちの顔を見ながら読んでくれるから楽しい」と花しおりの魅力を語る。

読み手の姿は、本の魅力と共に子どもたちに確かに伝わっている。「子どもたちから元気をもらって帰る。自分がしているというように、させてもらっている感じ。」

お話の導入で歌った歌を思いがけず褒めてくれたり、買物物をしていると声を掛けてくれたり。メンバーみんな、子どもたちからもらう喜びも楽しみもなっている。

## 本が導く新たな世界

平成30年からは取り組みが評判を呼び、支援学校や施設でも読み聞かせをスタート。新たな活躍の場を広げてきた。

そんな矢先、新型コロナウイルスの影響で活動は休止。学校にも、各施設にも行けない状況が続いている。

「子どもたちには、こんな時だからこそ本を読んで、想像の翼を広げ、心の中だけでも旅に出てほし

い。」とリーダーの中村亜紀さんは話す。本が導く想像力は新たな創造へとつながっていく。

読み聞かせが、子どもたちに本好きの種をまいて芽を育て、心の栄養となつてほしい。これが、花しおりの願いであり、続ける理由。楽しいときが生まれ出す、つかの間の非日常の世界が子どもたちを新たな世界へいざなうと信じて。



後段 道越 里恵、嶋田 啓子、池上 史代、山下 康代、津田 美千代  
中段 杉山 清美、嶋崎 命子、佐藤 香、後迫 敬子  
前段 中川 寿子、前崎 正隆、中村 亜紀（全て左から）  
他メンバー 今面 美奈子、松本 由美、田中 洋子、中本 牧子、沖村 整子

# 宇輝人

vol.53